

## 第12次復興支援ボランティア

派遣期間	2012年10月19日（金）～21日（日）				
派遣場所	宮城県七ヶ浜町	派遣人数	22名	長電全体	37名

### 《参加者氏名》

	氏名	所属組織名		氏名	所属組織名
1	水野 辰也	自治労長野市職員労組	12	勝野 泰光	自治労県職労松本支部
2	小林 偉良	農団労ながの農協労組	13	上田 泰幸	
3	吉澤 茂夫		14	飯澤 芳彦	
4	藤澤 秀司	電力総連関西電力労組 木曾川支部	15	藤牧 靖次	自治労松本市職員労組 ※家族
5	吉川 吉浩		16	藤牧 功子	※家族
6	原 文彦		17	宮野尾修三	自治労県職労本庁支部
7	田淵 貴久		18	宮野尾建司	※家族
8	新田 貴久		19	岡崎 直人	自治労県職労上小支部
9	木内 毅	農団労佐久浅間労組	20	佐藤 信一	農団労須高農協労組
10	小山 知洋		21	原 広和	
11	中村 康志	自治労県職労長野支部	22	中島江利子	

### 《3日間のスケジュール》

10月19日（金） 曇り

13:00 阿川地区田圃のガレキ撤去作業

15:00 VCに戻り道具の片付け

10月20日（土） 曇り

10:00 阿川地区田圃のガレキ撤去作業

終了後、菖蒲田浜などの視察

VCに戻り道具の片付け

10月21日（日） 曇り

10:00 阿川地区田圃のガレキ撤去作業

12:00 VCに戻り帰路につく



### 《参加者の想い・感想》

#### 違和感

[自治労長野市職員労組・水野 辰也]

とても田とは思えない光る砂を掘る。中からCDのかけら、ファミコンカセット、ユニクロのシャツ。出てくる生活の跡……。役に立つのかな？やらないよりマシなのかな？

違和感のあった朝のミーティング。

ボランティアは美化されるものじゃないでしょう。ヒーローになってはいけません。いちいち拍手はいらんないでしょう。

でも、この田に稲穂が実るのを見届けにまた来たい私でした。

[農団労ながの農協労組・吉澤 茂夫]

今年6月に続きボランティア活動に参加させていただきました。

七ヶ浜の復興は以前に比べ進行しつつある中、農地はまだ時間がかかると実感しました。一人では気の遠くなる作業が人が集まれば大きな力が生まれ不可能も可能になっていく。地味で地道な作業ですが、来年以降も是非お手伝いをさせていただきたいと思います。

宮城のため東北復興のため一人でも多くの仲間を連れて参加したい。2泊3日という期間でしたが、本当にありがとうございました。

#### [電力総連関西電力労組木曾川支部・藤澤 秀司]

初めてボランティアに参加しました。ニュースやテレビで見っていたのとは比べられないくらい感動しました。また参加したい気持ちです。

正直な意見として思ったより復興が進んでいないなあと感じました。ガレキ処理を体験してよく分かりました。

これから家族や仲間今回のボランティアで見たり聞いたりしたことを伝えて、また七ヶ浜や他の箇所のボランティアに参加するときは1人でも多くの人をつれてきて、活動したいと思いました。

#### 次に繋ぐ

#### [電力総連関西電力労組木曾川支部・吉川 吉浩]

今回のボランティア作業は津波の影響で田んぼに入ってしまった瓦礫の除去作業でした。

東日本大震災から1年半以上経過しているのにも関わらず、田んぼからは服や靴、エアコンの一部、ビデオテープ、窓ガラスの破片、屋根瓦の破片などが出てきました。

正直これには驚きを隠せず、復興は進んでいないと感じました。

我々は「よっしゃーやったるぜー」と気合を入れて臨みましたが、長野電鉄バスで参加した約40名が3日間かけて作業しても田んぼ5面が精一杯で、まだまだ手付かず広大な田んぼを横目に無力さを感じました。

田んぼの瓦礫の除去が終わってからも除塩など複数の行程を経ないと作付けは出来ないとのことでした。

お米が収穫できるまでにはまだまだ時間はかかりそうですが、今回我々が行ったボランティア作業は無力ながらも復興に向けて一歩前へ進めることは出来ました。

やはり、ボランティア作業はやりたいことをやるのではなく、被災された現地でその時々に必要な事を一歩前へ進めることが大切で、次に同じ志を持った人へ確実に繋いでいくことこそが、本当の意味での復興支援だと強く感じました。

#### [電力総連関西電力労組木曾川支部・田淵 貴久]

私が復興支援ボランティアに参加して、初日に水田を拝見したときは瓦礫も少なく、復興まであと少しであると感じました。

しかし、実際にゴミの収集を始めると、貝殻や衣服など通常ではありえないものが数多く存在しており、津波の爪あとを実感しました。

また、今回体験したような、細かい仕事こそ、人の手の力が必要であると感じました。

三日間の短い活動期間ではありますが、綺麗になった水田を見渡すと復興に貢献できたと感じました。

### [農団労佐久浅間労組・木内 毅]

七ヶ浜町の水田の復活作業に参加できて農協職員としても意義深いものを感じました。

元に戻すまでには長い行程が必要となりますが、また参加し一助とし稲穂が実る風景を見たいと思います。

一番衝撃だったのは、津波の被害を受けた街が遺跡のようになってしまい人々の生活が消えてしまっていることです。しかし、頑張っている地元の皆さんの姿もありました。

国レベルでもっと真剣に復興に取り組み、国民を上げて取り組む必要性を感じました。

### [農団労佐久浅間労組・小山 知洋]

今回初めてボランティアに参加した。七ヶ浜でのガレキ撤去は思っていた程きつくはなく、もう少しやりたい、できるという思いだった。他の方々もそのように思っているのではないかと感じた。

しかし、皆やる気はあるけども初対面で「簡単な作業で良い」との指示に従う人、「簡単な作業ではガレキが残る」との思いで土をほる人と各々がばらばらに作業をしていて効率が悪かった。性別・年齢の違う初対面の人々が効率良く作業する方法（誘導・説明）が必要だと思う。

### [自治労長野県職員労組松本支部・勝野 泰光]

今回の東北ボランティアで昨年に引き続き2回目となりますが、連合長野主催ということで職場の仲間を誘い3人で参加させていただきました。

現地に行くと、外国人も含め同じ志のボランティアが多数いて人間の温かさを感じうれしく思いました。

今回は、田んぼの瓦礫処理という単純な軽作業でしたが、長辺が100m、短辺が30mという田んぼで1人では到底困難なものです。しかし、長電バスツアーの37名で一斉に行くと瞬く間に終了し満足感・爽快感を味わいました。

改めて、1人の力は微力であるが大勢集まるとすごいパワーが発生することに驚きと和の力の素晴らしさを感じました。

また、実働2日間という短いものでしたがボランティア仲間の連帯感も生まれました。来年も企画していただければ是非参加したいと思います。



## はじめてのボランティア活動

### [自治労長野県職員労組松本支部・上田 泰幸]

私は今までボランティアといわれるものに顔を出したことはありません。今回、職場の同僚に誘われるままに参加した。

未曾有の津波で被災し早や一年半。復興の様子にも興味がありましたが、今までたいした支援もできないでいたのでこの際何でもいからお手伝いできればとの思いで参加した。

作業内容は自分の思いとは違い単純な作業ではありましたが、田んぼの再生には必要な人海戦術だと思いました。

微力ではありましたが、一日も早い復興を願います。

### [自治労長野県職員労組松本支部・飯澤 芳彦]

遠方から参加しているので作業時間を増やしてほしい・等間隔で整然と行った方が効率的との意見に、一年半の試行錯誤の末の運用とボランティアリーダーの説明。

山梨県から24回目の参加で、毎回車中で寝泊りしているという。仙台市から参加のリーダーからは、仙台市民ですら被災地への関心が薄れていると訴えた。263回目？参加とのことである。

何れも七十歳を超えるご老体。被災地へ元気を届けるどころか、元気をもらった。

### [自治労長野県職員労組本庁支部・宮野尾 修三]

作業を行った農地は、大きながれき等は撤去された後で、私たちの手伝いは農地に埋まった小さながれき、ガラスの破片、石の回収でした。

農地を数面担当しましたが、津波の流れ方の違いから回収がする物が違って、津波の押し寄せた際の被害に心が痛みましたが、私たちの活動が少しでも復興の手助けになればと思い作業に取り組みました。

朝の集会で、地元農家の方、ボランティア役員、町役場職員から、復興には長い道のりではあるが少しずつ進めていくと拝聴し、今後も継続した支援活動が必要と感じました。

最後に、東北を訪れる機会を設けていただいた連合長野及び長電観光に感謝いたします。





[家族・宮野尾 建司]

初めて見る被災地の状況に唖然としました。人々の営みを一瞬にして奪い取った自然の脅威にただただ愕然とするばかり。

実質8時間、田んぼの中の石やゴミを取り除く作業でしたが、天気にも恵まれ、少しでも役に立てばと作業致しました。

今回参加したこと、貴重な体験となりました。



[農団労須高農協労組・佐藤 信一]

水田の瓦礫拾いの作業をさせていただきましたが、ボランティアセンターに丁寧に復旧までの行程が示されており、自分自身の取り組みの意味や重要性を認識いたしました。

作業中プリクラを拾ったのですが、供養したいと思います。

まだまだ長い期間復旧までに時間が掛かると思います。微力ではありますが、これからも携わっていければと思います。



[農団労須高農協労組・原 広和]

今回機会があり、宮城県七ヶ浜町へボランティアへ参加が出来、大変有意義な3日間となりました。震災から1年7ヶ月が過ぎ、復興も進んではいきましたが、今回のボランティアは田の瓦礫拾いででした。作業をしてみると、色々な物があり、現地のボランティアの方の話しを聞けば、田にするには相

当の時間がかかると聞いて、たとえ小さな事でも出来る事はしなければと思いました。

又、機会を作りボランティアに参加したいです。

**[農団労須高農協労組・中島 江利子]**

宮城県へのボランティアは2回目でした。約1年3ヶ月前と比べれば見違えるほど変わっていました。

見た感じでは何も無いような気がしましたが、いざ田んぼの中に入ってみるとごみ・石コロ・貝殻がゴロゴロしていました。おいしいお米が少しでも早く出来ればいいなと思い拾いました。

まだまだですが、これからもボランティアがあれば参加をしていきたいと思いました。